

《薬局サーベイランスコメント》

『第6週（2月8日～14日）のインフルエンザの推定患者数は今シーズンの最高値を更新。第7週は横ばいかやや減少すると予想されるが、今後数週間は本格的な流行状態継続の可能性あり』

2016年2月16日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス

(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kanjyasuikei/index.html>) からの2016年第6週（2月8日～14日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は6週連続で増加して1,348,670となり、2週連続で100万人を上回ると共に今シーズンの最高値を更新しました（図1）。各都道府県別の第6週の人口1万人当たりの1週間の推定受診者数をみると、北海道、広島県、大分県、福井県、富山県、岐阜県、奈良県、兵庫県、愛知県、長野県、長崎県、大阪府、静岡県の順となっています。西日本を中心に38府県で前週よりも増加していますが、東京都、神奈川県、青森県、北海道等の東日本の一部では減少が見られています。また、一方、2月15日（月）の推定患者数は312,172と前週（第6週）の月曜日（2月8日）の値314,657よりもやや減少しており、第7週（2月15日～21日）は第6週と比べて横ばいかまたは減少傾向となる可能性が考えられます。

2015年第36週から2016年第6週までの累積の推定患者数は4,005,411(4,005,000)であり、年齢群別では5～9歳（22.0%）、40～49歳（13.3%）、30～39歳（13.0%）、10～14歳（12.4%）、0～4歳（11.2%）、50～59歳（7.5%）、20～29歳（7.1%）、15～19歳（5.2%）、60～69歳（5.1%）、70歳以上（3.2%）の順となっています（図2）。14歳以下の年齢群の割合は減少して成人層の割合が増加しています。

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報(<https://nesid3g.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data2j.pdf>)によると、これまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス（1,267検体解析）は、A/H1pdm 51.9%、B型 28.7%、A/H3（A香港）亜型 19.5%の順となっています（図3）。また、直近の5週間（2016年第2週～第6週；これまでに715検体検出報告）では、A/H1pdm 58.3%、B型 32.3%、A/H3（A香港）亜型 9.4%の順となっていて、本格的な流行となつてからはA/H1pdmとB型インフルエンザの混合流行が続いています。

2015/2016 シーズンのインフルエンザの患者数は1月に入って急増し、第4週より流行は本格化して、第5週、第6週と1週間当たりの推定患者数は2週連続で100万人を上回りました。第7週は前週と比べて横ばいかやや減少すると予想されますが、B型インフルエンザの流行状況をみると、急激に患者数が減少することはなく、今後数週間は本格的な流行状態が継続する可能性があります。今後ともインフルエンザの患者数の推移には注意深い観察が必要です。

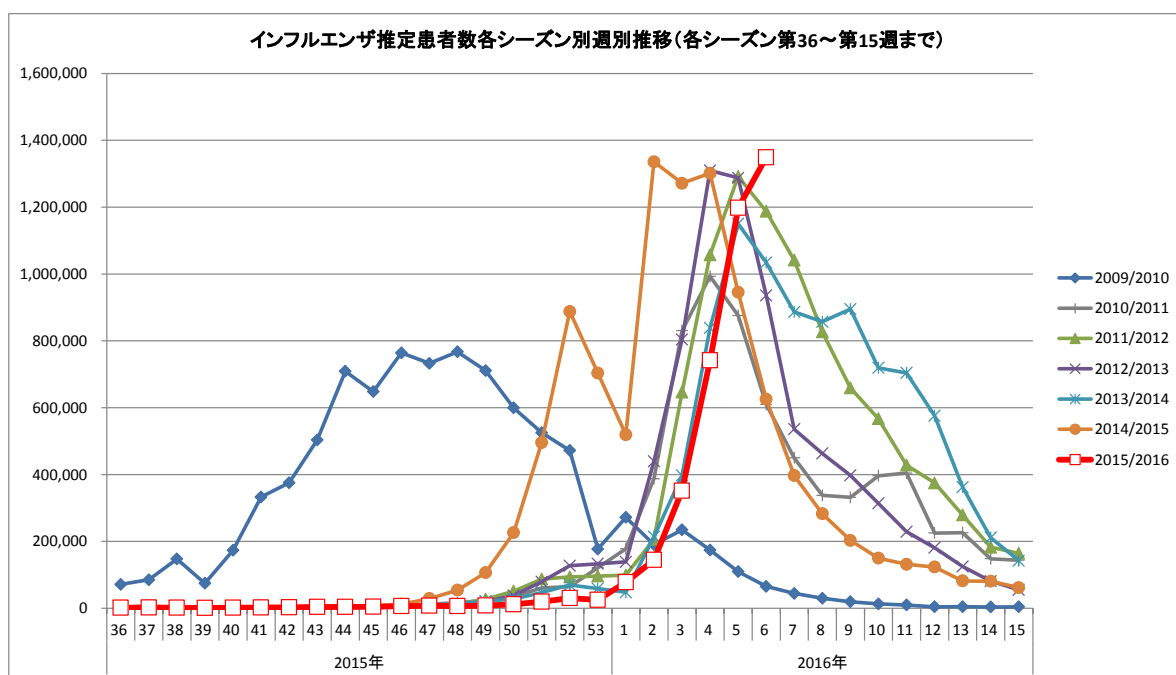


図1. 過去5シーズンと今シーズン（2015/2016シーズン）の第36～第15週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

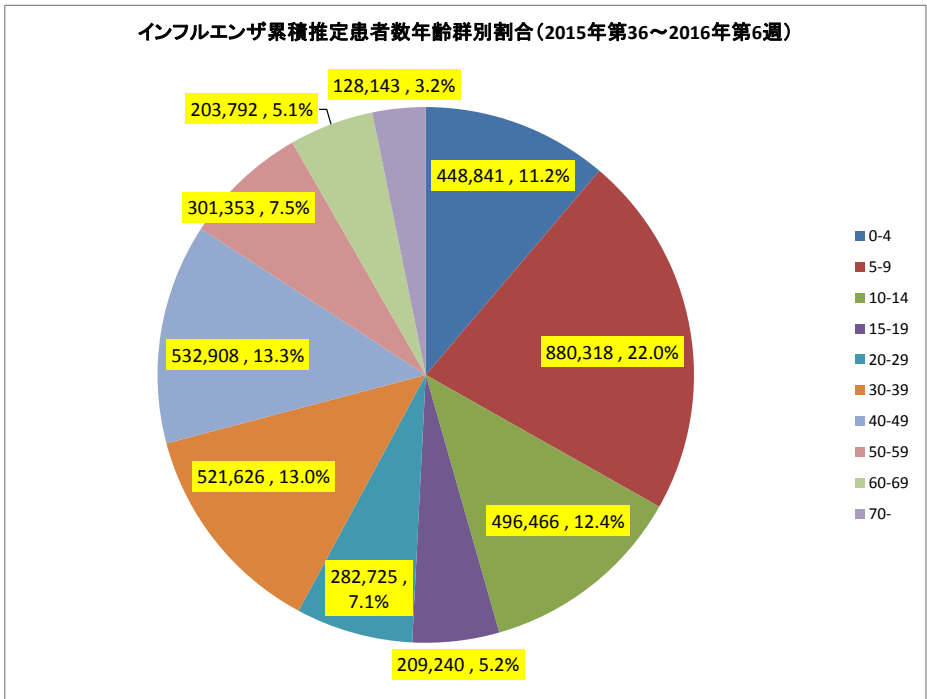


図 2. インフルエンザ累積推定患者数年齢群別割合 (2015 年第 36～2016 年第 6 週、累積推定患者数= 4,005,000)

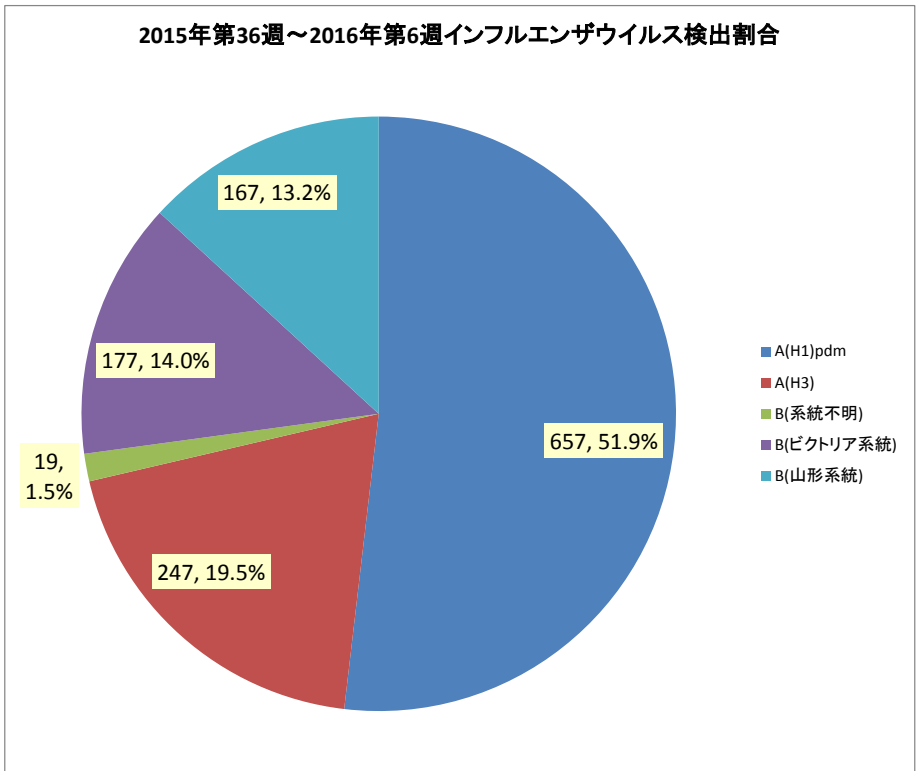


図 3. 2015 年第 36～2016 年第 6 週インフルエンザウイルス検出割合 (総検出数=1,267)